

失行、失認の評価と治療

成人片麻痺を中心に

七沢病院副院長

福井 罔彦・他 監訳

この本の原著は3、4年前、当時アメリカに行って居た方が贈って下さった。大そう期待して読み、そのせいか少し物足りなかった記憶がある。

ところが今度、その翻訳が出たという。してみると、はじめ私が気がつかなかった良さを、訳者の方々は見い出していたのに違いない。私は心を落ちつけ、生意気を拭い去り、できるだけ素直な気持ちで読み直すことにした。

この本（小冊子）は、理論には深入りせず実践に役立ちそうなものだけを整理する、という立場から書かれている。紹介されている検査法の

数はかなり多い。また、これを読むだけで実際に検査を行えるようにとの配慮がかなりの部分についてなされている。精神神経学系統の成書に慣れている人なら、ここで目新しい検査法のいくつかに出会うことであろう。「治療法」は、主として文献探索や作業療法士とのインタビューの結果を簡条書きにしたものである。プログラムの立案に悩むとき、本書から具体的なヒントが得られることも多かろうと思われる。

はじめて読んだとき気づかずにいたが、実はこの本は「手引き書 manual」として書かれたのである（原題の副題による）。著者独自の試

東京都老人総合研究所

鎌倉 矩子

みや思考の跡が感じとれないのは、だから致し方のないことであろう。私が最初に抱いた期待は、お門違いだったと言わなければならない。

目の前に患者がいる以上、誰もが当面のノウハウを求める。真面目な勉強の成果と簡便な形式とによって、本書はそのようなニーズに応えたのである。明朗で勤勉なアメリカ人のおもかげがそこにある。

さいごに、訳文は大変りっぱで、申し分のないものであることを言いそえておきたい。

（A5変型、頁128、図11、1980、
¥1,700、〒200、医学書院 刊）